幡多希望の家

（No.18）

〒788-0782　高知県宿毛市平田町中山 867
医療型障害児者入所施設
療養介護事業
幡多希望の家

TEL ◆（0880)66-2212　　FAX ◆（0880）66-2215
HP　◆ http：//www.hatakibou.jp/
Mail ◆ hataki01@mb.gallery.ne.jp
＜発行所＞　幡多希望の家　　＜発行責任者＞　河原　敏郎
＜発行日＞　2021 年 5 月 31 日

理事長あいさつ

2021 年 4 月 23 日、長く闘病中でありました元施設長の木村清次先生がお亡くなりになりました。関係の皆様にお知らせするとともに、当施設への多大なる御貢献を感謝し施設を代表して先生のご冥福をお祈りいたします。

さて 2020 年に始まったコロナの世界的大流行により、世界では 1 億 2 千万人以上の人が罹患し、110 万人以上の人が死亡したとされています。多くの国でワクチンが始まりましたが、変異株の出現もあり、今なお収束の兆しが見えてきません。幡多でも 1 年間に 60 名の陽性者が発生しましたが、職員の感染対策により施設内陽性者は出ませんでした。(2021/3/31 現在)。職員諸氏の感染防止への努力に対し、理事長として心よりの謝意を表わしたいと思います。

当施設は幡多地域における大切な“重心施設”であり、利用者さんへのより良い生活の場の提供に努めています。しかしガバナンス等の改革が強く求められ、昨年度には外部委員による運営検討委員会を設置しました。そして施設の安定した運営と存続を目指して、施設移転の必要性や組織上の問題点等を検討して頂き、それらの改革案を提示して頂きました。当施設としては、それらの提案を真摯に受け止め、本年度はその改革案を実現する年にしなければなりません。また将来の地域人口の減少が予想される中、他組織との協力、合併も含めた多方面からの検討が必要と考えます。決して平坦な道ではありませんが、利用者の御家族や職員の理解と協力を得て、希望を持って 2021 年度の歩みを踏み出したいと思います。

施設からのお知らせ：2020 年はコロナに明け暮れた 1 年でした。この間、ご家族の皆様には、面会制限などにご協力いただきありがとうございました。幸いにも、職員による水際作戦を中心とした感染対策により、当施設では陽性者を見ませんでした。この 4 月からは職員と 65 歳以上の入所者さんへのワクチンが始まりました。ワクチン効果は未だ十分解明されていませんが、有効であることを強く期待しています。三密回避など個人対策は続けなければなりませんが、1 日も早いコロナ流行の収束を願います。そして利用者さんとご家族が自由に面会できるようになることを祈っています。＜文責；河原敏郎＞

「親と同胞（はらから）」　―施設長だより―

【聖書；ヨハネ伝、9 章 2~3 節】

弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現われる為である。」

2020 年 10 月の高知新聞のコラムに、柳田国男による「**他人おそろし、闇夜はこはい。親と月夜はいつもよい。**」の文章を見つけました。彼の著書の何処かで見たことのある言葉でしたが、どうしても思い出せませんでした。コラムには子守歌と紹介されており、地方の子守歌がその基にあり、彼がそれを引用したのかもしれません。文意は文字の通りで「海千山千の世間の手合いと闇夜の恐ろしさに比べ、親と月夜ほどありがたいものは無い」です。

柳田　国男

柳田 國男は兵庫県福崎町で生まれ、東大の法学部政治学科に入学しました。学生時代に農政学を学び、農民の暮らしや地方の言い伝えなどに関心を深めていきました。卒業後に農商務省の農務官僚となった後も、日本中を旅して訪れた各地の実情に触れるうちに、「日本人とは何か？」を求めるようになりました。やがて、貴族院書記官長や枢密院顧問官などの要職を務めながらも、民俗学に関する著名な論文を数多く発表し、官僚としてより日本民俗学の研究者としてその名を残しています。後に民俗学研究の功績により日本学士院会員に推挙され、また文化勲章も受章しています。

宇宙のオアシス

宇宙をある程度理解する現代人も、底の無い暗黒の宇宙には言い知れぬ強い不安感や恐怖感を持ちます。しかし漆黒の闇の中に浮かぶ青く輝く地球を見た時、人は、その美しさに息をのみ、安心感と安堵感をおぼえます。まさに宇宙のオアシスと呼ばれるに相応しい存在であり、人類最初の宇宙飛行士ガガーリンの言葉「地球は青かった」を思いおこさせます。そして以降の宇宙飛行士たちも異口同音に母なる地球の美しさを述べています。できれば私も国際宇宙ステーションに乗せてもらい、1 周で良いので外から美しい地球を見てみたいと願います。また夜側の地球では、世界中の大都市が明るい光を放っており、特に我が国はその光で日本列島の輪郭がくっきりと浮かび上がるほどです。これに比べて某将軍様の国では、暗い国土の中で、幾つかの光の点が都市の位置を推測させる程度です。おそらく宇宙から見た明治初期の日本も、現在の将軍様の国の様に見えたのではないでしょうか。

夜側の地球の景観

私の部屋に、10 年程前に撮ったと思われる利用者の方々のスナップ写真があります。以前の施設長が残していかれたものです。写真の中の利用者さんたちは、表情豊かに笑ったり、食事をしたり、また家族と一緒に写真に収まったりしています。10 年の経過があるとは言え、写真と比べて、現在の利用者さんたちは、明らかに行動能力が低下し反応が弱っているように見て取れます。しかしそのような症状進行の中にあっても、利用者さんたちは、残された能力を精一杯使って日常生活を送っています。日中に、廊下を自らの力で車椅子移動をしている人がいます。ときには、自力で車いすに這い上り、そして車椅子から立ち上がって高い所の物を取ろうとする人もいます。またリハや支援の方々の見守りの下、歩行補助器を使って歩行訓練をしている人を見ます。更には、言葉が出せないと思っていた利用者さんがたどたどしい言葉で「オ・ハ・ヨ・ウ」と挨拶をしてきた時にはびっくりしました。就任当初の私は、ベッドや車椅子上でじっとしている利用者さんたちが、これ程多彩な能力を持っていようとは想像もできませんでした。そしてそれらの能力の維持増進に、看護や介護支援、リハビリの方々の力が如何に大であるかを改めて教えられます。

今回のコロナ騒動では、感染予防のために、利用者さんの心身の支えである運動や外出、また家族面会などに制限を加えざるを得ず、当施設でも家族面会は一時中止となりました。しかし現在は、厳重なコロナ対策下に、地域の感染状況を見ながら、窓越しに面会したり、病棟外の面会室で回数や時間を制限して実施しています。入職以来のコロナ騒動で、ご家族に会う機会が殆ど無かった私は、この機会にできるだけ面会室へ出向いて就任挨拶と病状説明をさせてもらっています。そしてその所で、私は新しいことを発見します。それは、利用者さんの顔がいつもより明るく生き生きとしており、穏やかな表情を見せてくれていることです。その表情からは、利用者さん自身も家族面会を待ち望んでいることを強く思わされます。たとえ寝たきりに近い利用者さんであっても、彼らの五感は非常に鋭敏です。彼らは、ご両親や同胞の声掛けや擦る手の温もりなどを通してご家族を認識しており、ご家族の想いと愛は、間違いなく彼らの心に届いているものと信じます。同様に看護や介護に携わるスタッフの優しい心も、ケアを通して彼らの心に届き、その柔和な気持ちや明るい表情に結びついているものと思います。

利用者さんについて、まだまだ知らないことの多い私ですが、彼らの持つ能力や表情の変化を少しでも分かるようになり、彼らに寄り添っていければと願います。

利用者さんにとり、家族との絆は何物にも替え難いものです。その大切な家族面会が自由にできるよう、コロナ流行の 1 日も早い収束を祈ります。

「病おそろし、コロナはこはい。親とはらからいつもよい。」

施設長；　島田　誠一

つくしんぼでのとりくみ（春休み休暇支援）

未だコロナ禍の最中ですが、子どもたちに色々な体験をしてほしく、三密を避けながら種々の行事に取り組んできました。その中の一部をご紹介します。

冬

初詣；コロナのために初詣に行けなかったので、みんなで“あまびえ神社”を手作りして初詣を楽しみました。

さんぽ；近所には公園や牛舎などがあり、車も少なく、のどかなお散歩をたくさん楽しめました。

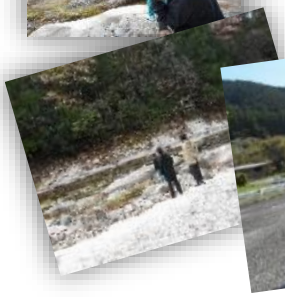
春

お花見・ドライブ外出

（*貸し切りの穴場スポットへ！*）

庭には大きな桜が咲いており、木をゆらして花びらをちらしたり、木にのぼったりと、思い思いに楽しみました。河原では、石なげをして、気持ちよい春の一日を過ごしました。

シャボン玉・製作；その日はぽかぽかの陽気で、シャボン玉遊びには最適でした。またスライムで、かんしょくあそびやカンバンつくりなどにじっくりととりくめました。



編集後記：今回から、本誌の体裁を縦書きから横書きに変更しました。まだ十分に練れたものではなく、皆様からのご意見を頂きながら、より良いものを目指したいと考えます。ご提案をお願いいたします。理事長の挨拶文にもありましたように、2021 年 4 月 23 日、非常にお世話になりました元施設長の木村清次先生がお亡くなりになりました。次回の広報誌で追悼文の掲載予定です。＜河原＞